

EXPLANNER/C あおみ建設株式会社様 導入事例ご紹介

- ハード、ソフトの老朽化、機動性の向上を EXPLANNER/C の導入で実現
- 「全体最適化」を目指し、最小限のカスタマイズに留め短期間で導入、将来に向けた情報基盤を最良のコストパフォーマンスで構築

あおみ建設株式会社様(以下「あおみ建設」という)は、埋立て、浚渫、湾岸整備等の海洋土木工事を得意とする、いわゆるマリコン(marine constructor の略)と称される総合建設会社であり、近年では道路・鉄道建設、上下水道整備など土木工事の様々な分野で数多くの実績を築いてきました。また、地盤改良工事はその特化した技術で、同社を特長づける事業に育っているなど、国内屈指のマリコンとして今日の姿にまで成長発展されました。今後は、海外事業等の新規参入など、多様性を持って市場環境の変化に対応しながら、建設事業の深耕とその外縁を広げる取り組みを進め、さらなる社会基盤の発展へ貢献されることでしょう。

さて、同社では日々進化する経営要件へ対応するために ERP を導入することとなり、その中核に EXPLANNER/C を据えました。システムは短期間にて、かつ最小限のカスタマイズで導入され、将来に向けた情報基盤の構築を最良のコストパフォーマンスで実現しました。

導入の背景:

ハード、ソフトの老朽化、機動性の低下改善及び、経営要件の実現に向け ERP 導入を決断

プロジェクトを統括されたシステム担当者は次のように述べます。

「当社は10数年の長年にわたり、某メーカーによりスクラッチ開発したシステムを利用してきました。しかしながら新たな機能要望や法律改正による仕様の変更等、必要な機能を追加装備しつつ現場の効率化を進めてきましたが、度重なるカスタマイズによるシステムの複雑化、新たな要望への対応にも限界が来ていました。あわせてハードウェアや OS・ミドルウェアの老朽化、新しいクライアント環境への対応などにより、基盤のリフレッシュが急務となっていました。」

そこで、この機に以下に示す経営要件の実現に向け、ERP 導入の検討を開始しました。

- ・ 多少のカスタマイズで利用できるERP製品で長期的なランニングコストも抑えられる
(「カスタマイズありき」は論外。すぐ使える製品を希望。)
- ・ 税制改正等の対応にも迅速に対応できる事
- ・ 業務遂行する上でできるだけ担当者が違和感なく操作できる事
- ・ 部門間での情報連携による業務負荷の分散と、情報の精度向上
- ・ 売上、原価、および利益に対する決算予測の早期化
- ・ 業務プロセスの効率化
- ・ 内部統制とコンプライアンス対応の強化

導入の経緯:

ERP 製品に EXPLANNER/C を選定

また、ERP の選定ポイントを以下に決めました。

- ・ 想定業務フローなど、建設業のベストプラクティスが考慮されていること
- ・ ニーズに応じて柔軟かつスピーディーに機能を調整できること
- ・ 現場重視という業態を考慮し、何時(いつ)でも、何処(どこ)からでも利用可能なWeb型アプリケーションであること

更にもうひとつ、「パッケージには極力カスタマイズを行わない」という方針を付け加えました。つまり『パッケージ標準機能のままで経営要件を満たす』という高いハードルが設定されたのです。そして多くの建設業向け ERP を比較・検討した結果、これらの要件を満たす製品として EXPLANNER/C が選定されました。

導入方式としてLSPを採用

次に EXPLANNER/C を最小限のカスタマイズで導入する方法が議論されました。その結果、株式会社ユニテック(以下、ユニテック)がサポートする導入モデル『LSP(ライトスタートプラン)』が採用されました。LSP のコンセプトはつぎのとおりです。

- ・ 「カスタマイズは行わない」という大原則に基づいた運用設計の実施
- ・ 最初から多くの要件実現を狙わず、まずは「ERP 基盤の確実な構築を優先」
- ・ ギャップ解消に対する優先順位の定義
 - ① ギャップに対する客観的な検証
 - 機能論に終始せず、該当業務の「目的」に回帰
 - ② 代替機能の活用
 - ③ BPR
 - ④ アドオン(システム)の構築

そしてプロジェクトは当初の予定通りで完了しました。システム担当者は次のように述べます。「結果的に最小限のカスタマイズと、ある程度のアドオンは施しましたが、LSP 方式を前面に打ち出した事によりカスタマイズの肥大化が十分に抑止できた。本体へ極力、手を加えないアドオンの方針で今後も拡張・対応させて行きたい。」

システムの概要と導入の成果

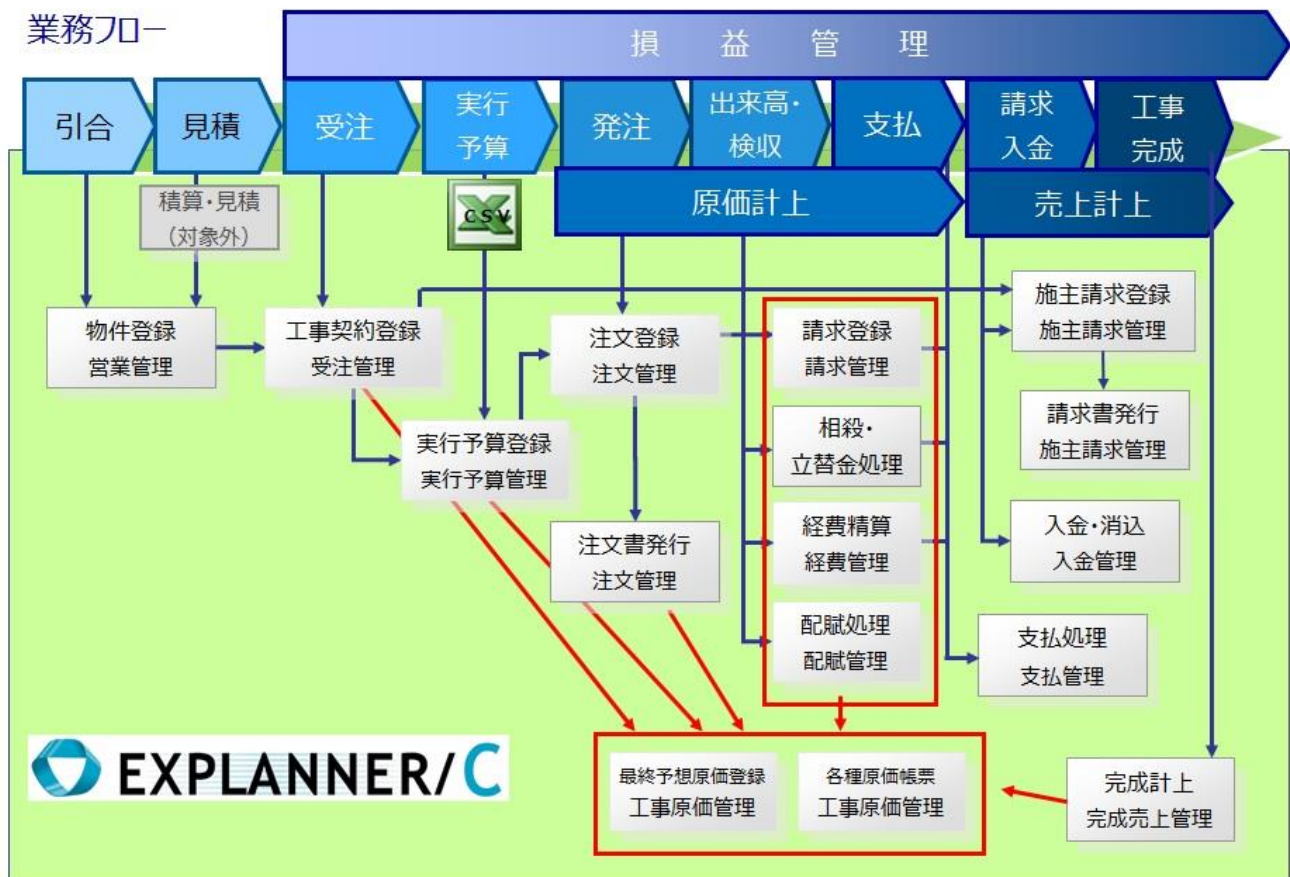
発生源入力データを全社で有効活用

情報発生源がそれぞれの管理目的で登録したデータを、関連部門がそのまま活用できるという点で、データの精度と管理効率が高く担保されており、一元化されたデータベースの検索による可視化や、Excel 出力された帳票、CSV としても取り出せるデータを元にして管理会計へ応用利用することでの省力化など、多くのメリットを肌で感じています。今後はBIなどを使った、情報のリアルタイム

ムな活用を目指して行きたいと思っています。

また、スクラッチ開発システムと違い、パッケージの大きなメリットは、年間保守料のみで会計基準の変更や税制改正等への迅速な対応が可能となり、費用と時間の大幅な削減を実現可能であると感じています。

業務の流れとパッケージ機能の関係



今後に向けた展望:

発生源入力と原価意識の更なる向上を

発生源部門より各自入力を行う事により、各工事の原価進捗や最終損益の見通しを EXPLANNER からリアルタイムに把握できるので、以前より意思決定の迅速性が増しました。これにより数値の精度だけでなく、原価意識の更なる向上に繋がるものと期待しています。

カスタマイズ抑止への心構え:

プロジェクトメンバーひとりひとりが「システム再構築の目的」と「全体最適化」の視点で臨む

システム導入を担当したユニテックの担当者はこう主張します。「EXPLANNER/C は業務にフィットさせるためのパラメータ類が豊富です。これをお客様と協議しながら一つ一つ調整することで概ねのご要件には対応できますが、細かな部分にどうしてもギャップが残ります。プロジェクトメンバーを

構成する方々は各部門の代表者であり、自部門の意見を代弁するのが役割のひとつです。しかし、お互いがそこだけを主張すれば『個別最適化』、つまりカスタマイズの塊(かたまり)となってしまう、当初の趣旨から逸脱します。このため、『業務の目的と対比して、本当にそれがコストと時間を掛けてでも対応すべきギャップなのか』という全体最適化の視点が不可欠です。あおみ建設様の場合、お一人お一人が LSP の趣旨を十分理解されたうえでプロジェクトに臨まれたため、仮にギャップがあってもこうした原点回帰により、予定通りの期間、かつ最小限のカスタマイズで完遂できたと思います。」そして担当者はつぎのように付け加えます。

「LSP 方式が必ずしもベストかどうかは判りませんが、お客様が ERP のメリットを損なうことなく、低価格かつ短期間で導入するためのヒントにはしていただけたと思います。

残念ながら、ERP が持つメリットの大部分はカスタマイズの乱用で損なわれます。機能のラインナップが一定の基準を満たしてさえいれば、前述した原点回帰でギャップは乗り越えられると思います。当社は数ある建設業向け業務パッケージの中でも、EXPLANNER/C をノンカスタマイズで十分に導入可能な ERP と評価しております。今後も『低価格、短納期、そして ERP のメリットを生かして導入したい』といったご要望には、NEC のベストパートナーとして最善を尽くしたいと考えております。」

ERP のメリット

- ・ 導入費用が安価
- ・ 短期導入が可能
- ・ 法令変更やインフラ進化に応じたバージョンアップ適用
- ・ 多くの利用実績を経た品質レベル
- ・ PKGメーカー責任による継続的な仕様の維持管理
- ・ ベストプラクティスの実装
- ・ 内部統制やコンプライアンスなど、最新の経営要件の実装

おわりに:

お客様と導入ベンダーが、がっちりスクラムを組んで導入活動を遂行

経理担当者は次のように述べます。「はじめは LSP という方式を教育型の導入プログラムと見ていたため、その採用に不安を感じていました。業務の特殊性への対応や、過去情報との連続性確保など、そのため、システムの移行作業に予想外の手間を要することで、工程の進捗遅れへの懸念があったからです。しかしながら実態はそうではなく、導入ベンダーであるユニテックさんにより、短期間で移行できるよう週単位の細かな工程管理が行われ、また旧システムとのギャップや発生する課題の整理と解決を通して、双方の親密な友好関係を持ちながら、プロジェクトを着実に進めることができました。そして、時には移行に伴うデータ入力などの細かな作業フォローなども頂けたので、不安や問題を抱き続けることも無く、無事に移行が完了できました。」

プロジェクトの成功とは、結局はお客様と導入ベンダーの信頼関係があって初めて成立する、ということを改めて認識させられます。